

メルシャン軽井沢美術館

所 有 者 メルシャン 株式会社
設 計 者 鹿島建設 株式会社
ヴィルモット・ジャポン 株式会社
施 工 者 鹿島建設 株式会社
北野建設 株式会社



この美術館は、40年ほど前に建設されたメルシャン軽井沢蒸留所を、その形態を生かしつつ一部改修し、豊かな自然に抱かれた蒸留所の雰囲気を生かしながらいわばアミューズメントパーク的美術館として再生されたものである。

既存建物は、蒸留所ということもあって、コンクリート打ち放しの柱梁の軸組にコンクリートブロック化粧積壁をはめ込んだ極く簡素な編成ではあるが、これら幾つかの棟が、浅間高原を遠望出来る自然環境の敷地の中に点在し、質素で清潔感のあるたたずまいを展開している。各棟は、エントランス棟、ミュージアムショップ棟、美術館棟、インフォメーション棟と夫々機能特性を与えられており、それをあたかも一つの村を散策するように美術品を鑑賞し、ウィスキーを育んだ自然を親しみながら楽しく回遊するように全体構成されている。

建築内部は、空間特性を強調するためにモダンなデザイン感覚で改造を施しており、特に美術館棟は、自然光の取り入れ方や、大小様々な美術品に対応して展示できるように壁柱などの新設によって巧みに空間構成がはかられている点などに工夫が見られる。

この美術館の運営企画は、既存のコレクションをベースにしたものではなく、フランス美術館連合（RMN）など世界各国の美術財団の協力によって、主に西洋の近現代美術の作品展示を行うというユニークな展開がなされている。このアミューズメントパーク的美術館建設の全体構想の良さと同時に、美術館運営の巧みさは、'96年4月～9月で入場者数11万5千人という記録にも実証されていると言えよう。

設備として特記すべきことは、ウィスキー蒸留所という敷地条件の持つカビと湿気を除去するための、内壁と外壁の還気二重壁、防カビ塗装、ピュアライトフィルター、除湿機などに細心の工夫が見られることである。又法規上必要とされないが、貴重な美術展示品の損傷をさけることへの気配りで、避雷設備を設置したことも評価できる。

以上、民間の文化施設として、その企画力の巧みさと、施設再生のためのデザイン力、技術力にすぐれ、その運営も含めて極めてバランスのとれたリフォーム施設として本物件は高く評価される。